

コロナ禍でビジネス

環境が大きく変化する中、企業のデジタル変革(DX)需要が高まっている。セイコーホールディングス(HD)でシステムソリューション事業を担うセイコーソリューションズ(千葉市美浜区)は、人工知能(AI)やIoT(モノのインターネット)を活用した新事業や性能管理サービスが伸長。リモート、非接触、スピード、コラボレーション、可視化という五つのキーワードの下、新サービス提供を進める関根淳社長に今後の戦略を聞いた。

—コロナ禍でビジネス環境が大きく変わり

ストックビジネス AI活用アクセル

多角化徹底 事業価値向上

こうした流れの中で、感が重要になっていく。常に顧客を満して多角化していく。足させるようサービスIT業界はスピードが

非接触や非対面を実現するITソリューション契約によって継続的に収入を得られる需要が膨らんだのは間違いなく。AIデータストックビジネスの拡大を形にして先手を打つてサービスを重視しています。「AIを中核に置いていくというスピードたビジネス構造を作



セイコーソリューションズ社長 関根 淳氏

「選択と集中」は人材戦略で何を重視しない。スモールビジネスを立ち上げ、徹底「多様性が重要だ。は。今後の企業戦略のニーズにも着目している」

顧客の抱える課題の解育成としてもデザイン決には、観察して問題シンキングを徹底してを見つげ出す『デザイン教育している。スモールシンキング』が求めルビジネスを立ち上げられ、そこには男性やる能力を重視した組織女性などそれぞれの視作りもしている。組織点が重要となる。実際作りから事業の多角化に、多様性が大きい部を図り、多様な製品群門で業績が伸びること顧客ニーズにこえても分かっている。人材いく」

顧客ニーズ長期間対応必要に

記者の目

コロナ禍は経済に大きな混乱をもたらしたものの、DXの追い風となり、成長を後押しした。一方で、ストックビジネスは製品を売ればいいという形態ではなく、長い期間で顧客のニーズに応える必要がある。限られたリソースで事業の多角化を進めるには、AIの活用が不可欠だ。実行性があるAI戦略を立てていくことが今後の成長に求められる。(安川結野)